

コロナ禍における朝日小屋の実情と問題点

清水 ゆかり（北アルプス・朝日小屋管理人）

- 2020年2月の総会（コロナへの認識が低い中で開催）以降、北アルプス山小屋組合全体として、「コロナ」を巡る諸問題については、話し合いの場が持たれていない中で、私見を多く含む内容で話すという前提であることをご了解頂きたい。
- 朝日小屋について
- 3年にわたるコロナ禍の中、朝日小屋の置かれた状況と、迫られた対応
 - 山小屋の特殊事情（北アルプス・朝日小屋の場合）
 - 国立公園内という、限られた立地と制約
 - 平地にあるホテルや旅館との、決定的な相違点…限られた空間
 - 長時間歩いてしか辿り着けないという、特殊な条件の中で
 - 山小屋の持つ「特殊性」…自然保護や登山道維持管理、遭難対応など
 - コロナ禍における朝日小屋の営業
 - 2020年 完全休業し、登山者は受け入れなかったが、小屋には常駐
 - 2021年 定員を半分に減らして（100名→50名）営業
 - 2022年 北アルプスを含む全国の山小屋で、コロナ第7波の影響により営業自粛が相次ぐ中、コロナ対策を厳格にして4か月間営業
 - 諸々対応の難しさ、そして収益の激減
- 「コロナ禍」によって、大きく変化せざるを得なかった、朝日小屋の営業
 - 宿泊について…定員、予約受付（完全予約制）、予約受付の方法など
 - コロナ対策
 - 宿泊料金の高騰…ヘリなどの物輸代・物価高・人件費の高騰など
 - その他、変化せざるを得なかった点
 - 加えて、アルバイトなど人手不足の問題…募集しても集まらない、単価の高騰
- 2023年以降、朝日小屋は、それぞれの山小屋は、山小屋全体はどうなっていくのか
- コロナ前と、「afterコロナ」&「withコロナ」
…様々な事情が大きく変化し、この後どうなるか、どうするか難しい舵取り
 - 定員の問題（人数・予約制）と、そして料金の問題
→収益（経営）と、山小屋の維持管理に頭を悩ませる
 - 「山の文化」全体に関わる大問題…大きな流れは何処へ行くのか
 - 「山の文化」と、山小屋の存続